

吟で生き生き仲間づくり 及び 中学生との交流

光峰流吟道柳井吟詠会屋代教室
会長 吉永 光明

1 はじめに

平成30年度、山口県教育会の助成を受けて詩吟教室を立ちあげた。

コロナウイルス蔓延以前は、毎週の稽古や地域行事への参加、老人ホーム、児童クラブ、学校等で吟詠を通じて地域の方や児童生徒と交流を図っていた。

しかし、コロナウイルス感染防止のため多くの計画が中止となる中、新たな取組を行うことができた。

2 活動の概要

(1) 活動計画と実績

	年度当初の活動計画	実 績
教室、大会関係	◎週1回の詩吟教室 ◎外部講師による指導4回 ◎各種吟詠大会参加 年4回	◎通年実施 ◎2回実施 ◎県大会2回、柳井大会2回、町大会1回、音楽会社コンクール1回 (新)広島県新春短歌会
学校関係	◎大島中学校詩吟教室	◎(新)大島中学校詩吟教室及び <u>漢詩の中国語体験</u>
福祉施設等関係	■ほのぼの苑訪問 6回 ■児童クラブ 夏休み詩吟教室	×中止 ×中止
地域行事関係	■敬老会(三蒲小学校児童と参加) ■沖浦子ども会と吟詠大会参加 ■寺や神社の芸能大会参加2回	×敬老会中止 ×中止 ×芸能大会中止

(2) 活動事例 大島中学校詩吟教室及び中国語体験

① 目的

国語の教科書に掲載されている漢詩の吟詠と中国語による朗読を通じて

- ・日本の伝統芸能の一つである詩吟に親しみ、生徒と地域住民の交流を図る。
- ・中国語による漢詩の朗読を通じて、中国の文化にふれる。

② 日時

令和5年1月26日(木) 9:35~11:25 (2, 3校時)

③ 対象学年、場所

周防大島町立大島中学校 2年生 教室

④ 講師

- ・光峰吟道屋代教室 5名
- ・アイニー中国語学院長 本校（広島市）大島分校（周防大島町）

⑤ 授業の流れ

- ・学校あいさつ
- ・詩吟教室及び中国語講師あいさつ、
- ・詩吟の鑑賞
詩吟の説明
吟詠
黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る（合吟）
絶句（連吟）
春暁（独吟）
- ・漢詩の中国語体験
講師（中国人）による上記3詩編の朗読
春暁を暗唱指導
講師が日本に来たきっかけ、文化の違いなど（講話）
- ・まとめ
生徒お礼の言葉
学校長あいさつ



黄鶴楼にて…（合吟）



絶句（連吟）



春暁（独吟）



中国語体験

⑥生徒の感想

<詩吟の学習について>

- ・初めて「詩吟」という言葉やそのものを聞いて、とても勉強になったということが、心の中に一番残りました。
- ・詩吟の節調(ビブラート)や歌い方に感情がこもっていて、漢詩の情景が伝わってきました。時々、文節の終わりがぐっと上がって下がるのが耳に残り、面白いと思いました。
- ・詩吟は、日本の大切な文化だと思うので、今後機会があったら詩吟にふれてみたいと思います。
- ・詩吟を吟じていた人の中に知っている方がいて、登校の見守りをされていて、小学校の時にお世話になりました。

<中国語の学習について>

- ・春暁の中国語のフリガナを見て、ほぼ似たような発音だけに聞き分けられるのかなと思ったけど、1回聞いてみると意外と違うんだなと思った。
- ・初めて、中国語を学びました。自分には縁のない国の言葉だと思っていたけど、先生が中国語を教えて下さったおかげで、今では少し興味を持つことができました。
- ・先生の真似をしながら、班のみんなで「春暁」を中国語でなんとか読むことができたので、よかった。
- ・日本と中国の生活習慣の違いの話は、とても面白かったです。とてもいい体験でした。
- ・僕は何事にも前向きになれず、チャンスを逃すことがあります。しかし、孫先生には日本に行きたいという諦めない心があり、僕には無いものだと思います。先生の話聞いて、少しでも変わろう努力しようと思いました。

3 おわりに

コロナ禍のため各種行事が中止となる中で、広島県新春短歌会合同参加と大島中学校詩吟教室開催を行うことができた。

新春短歌会は、広島県廿日市市の詩吟教室に加えていただいたの初めての合同参加である。日頃の練習成果を発表する機会が少ない我々にとって、大きな舞台で発表できたことは、またとない経験になった。また、他県の詩吟愛好家と交流を深めることができた。

大島中学校詩吟教室は、2年ぶりの開催であった。学校より詩吟だけでなく中国語で漢詩を聞かせたいという依頼が以前からあり、会員が町内在住の中国人(中国語学院長)の方を探しあて、漢詩の中国語講座も行うことができた。

日本の伝統文化のひとつである詩吟を、次の時代を担う中学生に紹介し交流を図ることができた。

H県では平成初期に6000人以上いた詩吟愛好家が、現在1000人以下と聞く。町内、柳井地域内、県内はもとより、県外の愛好家とも交流を進めて仲間づくりに努め、子ども達に詩吟体験を通して交流をしていきたい。